

# フリースマイル横浜港南

支援理念：ひとりひとりが自立した社会人になる。

本人だけでなく、家族もともに笑顔になる支援を心掛ける。



## 衣服の着脱、食事、排泄などの 身近自立能力六自分のことは自分でやろう

自分ひとりで出来ないことは、スタッフが手伝います

- 濡れた衣服、汚れた衣服の着脱・片付け
- 夏はプールに入りますが、その際の着脱
- お弁当の準備、おやつ準備・片付け
- たこ焼き・焼きそば・カレーなど軽食作り など



ふりすまいるでのかつどう  
フリースマイルでの活動



## 道具の扱いなどの作業遂行に関する能力

遊び道具だけではなく、生活に必要な道具を

- たくさん体験して使えるように練習する
- ドライバーを使って、棚を組み立てる
- はさみで綺麗に形を切る
- ラケットでまっすぐ羽を打つ
- 洗剤とスポンジでコップを洗う など



## 自分の行きたい所へ移動するための能力

高学年と低学年では、実施できる自立移動範囲には  
差があります。安全面には十分考慮しつつ、  
移動範囲を広げて行きます。

- 電車の切符を買って電車に乗る
- 安全を確認して、横断歩道を渡る
- 自分の家の場所を説明できるようになる など



## 発達支援の5つの領域

発達支援は、子どもが将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるように  
するために行うものであり、具体的な本人支援は障害のある子どもの  
発達の側面から、左記の5つの領域になります。

送迎有

## 言葉や文字によるコミュニケーション能力

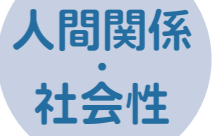
コミュニケーション能力には大きな差がありますが、大切なことは、  
言葉の上手さではありません。正しいことを正しく相手に伝えること。  
上手く言葉が話せなくても、ありがとう、ごめんなさいを  
正しく伝えることです。

- 絵カードを使ったコミュニケーション
- 挨拶の重要性
- ありがとう、ごめんなさいをしっかりと言う
- 相手の気持ち良い大きさと話す
- お出かけ時には、店員さんに挨拶をする など



## 家族以外の人の中で、 協調性を持って過ごすこと

- 鬼を決めておいかけてこ
- 数人でのトランプ
- 長縄跳び
- 一緒にお弁当を食べる
- お出かけした場所ではその場所のルールを聞き、ルールを守る  
単独遊びから複数遊びへ移行していく など



ひとりで遊ぶ➡スタッフとふたりで遊ぶ➡複数の人の中で遊ぶ



### 家族支援

家族の体調について情報を得ることで、利用者への体調管理へ繋がります。  
保護者様とコミュニケーションを重ね、家族を含め一貫した支援体制を構築します。  
また保護者様の悩みを聞く相手となり、保護者様の精神的な負担の軽減を図ります。



### 移行支援

適齢期に差し掛かった利用者様に、就労に向けた取り組みや就労支援事業所への  
定期的な体験を図り、卒業後に向けた支援を実施します。



### 地域支援

地域での催しに参加することや、ごみ拾いなどの行事に参加し、地域社会との  
繋がりを構築します。



### 地域連携

相談支援事業所や発達支援室等の機関とは日頃から連携を取り、関係性を  
構築しています。

### 職員の質 の向上

事業内・事業所外研修を行い、支援の向上に努める。研修費用を会社負担にする  
ことや、OJT\*の制度を活用し、研修に取り組みやすい職場環境を構築する。  
\* 実際の仕事を通じて指導し、知識や技術を身に付けさせる教育方法

## 体験・経験 主な行事等

- 1月 【初詣】
- 2月 【バレンタインおかし作り】
- 3月 【合同BBQ】
- 4月 【目標設定活動、潮干狩り】
- 5月 【避難訓練】
- 6月 【梅雨の制作】
- 7月8月 【プール遊び】
- 9月 【合同運動会】
- 10月 【ハロウィンパーティー】
- 11月 【みかん狩り・避難訓練】
- 12月 【クリスマスパーティー】

## 【支援方針】

### なぜ?を常に考える

SST(ソーシャル・スキルズ・トレーニング)は良く耳にすることはですが、  
わたしたちは子どもたちに対して常にSSTを基本として接します。  
1 正しい行動を見せる 2 子どもたちがやってみる 3 正しいことを教える  
4 どんな小さなことでも褒める 5 出来る体験を増やしていく  
6 子どもたちに自信とやる気を与える

### なぜ?を常に考える

さまざまな問題があります。大きなことは誰でも気付くでしょう。けど些細  
なことは?常に子どもたちの変化を感じ取り、察すること。小さなことを  
気付けば、大きな問題にならずにすむ。スタッフ間で小さな気付きを話し合い、  
なぜ?と考える。

### 本気で褒めて、本気で叱る。

子どもたちにとって、わたしたち指導員は大きな存在です。わたしたちは今後の  
子どもたちが正しい心を持って生きて行ってほしいから、褒めるときも、叱る  
ときも、本気です。本気で伝えないと、子どもには響きません。

